



# グリーンプロジェクト情報 緊急号

きらきら Eyeランド

J A庄内みどり

発行：庄内みどり農業協同組合  
長雨・日照不足対策本部  
協力：酒田農業技術普及課

## 【J A庄内みどり長雨・日照不足対策本部】設置！ 長雨・日照不足にともなう農作物の管理について

6月11日の梅雨入り以降、一か月間に及ぶ断続的な降雨と日照不足に見舞われております。水稲は中干し時期から圃場の乾燥が進まず、登熟に重要な根の伸張や収穫作業への影響が心配され、畑作物においては湿害による生育停滞や病害虫の発生が懸念されます。このことを踏まえ、農作物への影響を最小限にとどめるため、7月28日付けでJ A庄内みどり長雨・日照不足対策本部を立ち上げ、随時、技術対策にかかる情報発信に努めます。

### 1 共通

- (1) 水路や河川等は引き続き増水や氾濫の危険があるので、降雨がおさまリ、水路等の減水を確認したら圃場や施設を調査し、速やかに対策を講じましょう。
- (2) 停滞水がない圃場でも、集中した降雨により農作物が弱っている可能性があるため、その後の生育経過をよく観察し、速やかに生育の回復を図る対策を行いましょ。

### 2 水稲

- (1) 浸冠水した圃場では、可能な限り速やかに排水を行います。特に冠水すると酸素不足となり、幼穂形成期以降では穂や枝梗の退化や枯死、奇形穎花が発生したり、出穂・開花が不揃いとなりやすくなります。
- (2) 退水後はアワヨトウやウンカ類等の害虫の被害を受けやすくなり、出穂後は穂いもちが発生しやすいので、無人ヘリ等での防除を徹底しましょう。
- (3) 濁水や土砂の流入がみられる場合は、埋没、茎葉の損傷、倒伏、株流出などの物理的な障害も起こります。流入した異物などはできるかぎり除去しましょう。
- (4) 被害程度は、浸冠水時間、水温、水の清濁などに左右され、生育ステージでは穂孕期と出穂期の被害が大きくなります。

### 3 大豆

- (1) 浸水した圃場では、明渠の補修を行いながら可能な限り速やかに排水を図りましょう。
- (2) 濁水や土砂の流入がみられる場合は、埋没、茎葉の損傷、倒伏、株流出などの物理的な障害も起こります。流入した異物などはできるかぎり除去しましょう。

### 4 そば

- (1) 浸冠水した圃場では、明渠の補修を行いながら可能な限り速やかに排水を図りましょう。
- (2) 濁水や土砂の流入がみられる場合は、種子の埋没、流出、茎葉の損傷、倒伏、株流出などの物理的な障害も起こります。流入した異物などはできるかぎり除去しましょう。
- (3) 8月15日頃を播種の晩限としているため、圃場の排水状況及び乾燥状態をみながら播き直しも検討します。

## 7月の気象状況と生育概要について

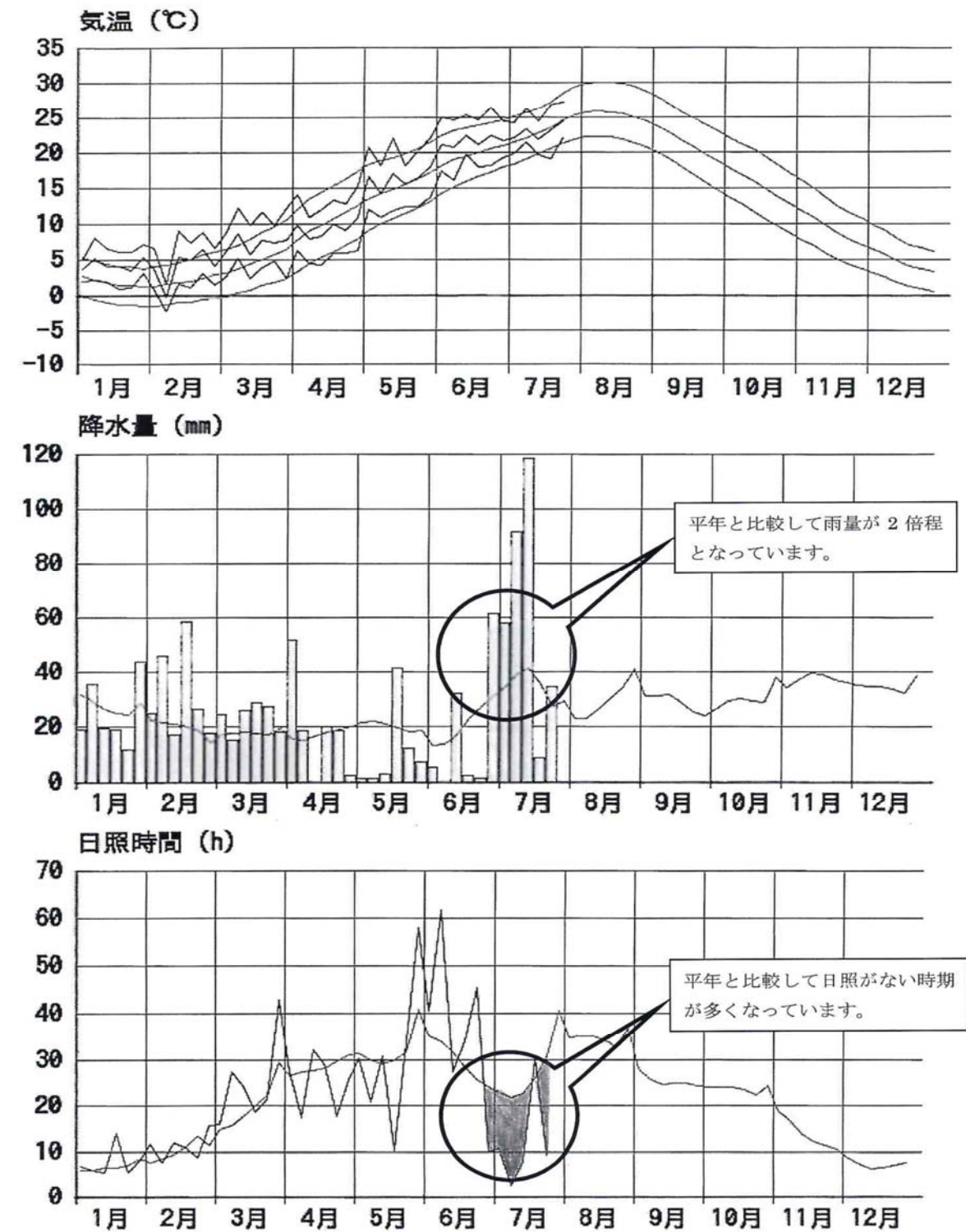
連日の長雨・日照不足となっており、各作物に生育停滞等の影響がみられます。7月単月の雨量は例年の2倍近くとなっています。また、それに伴い日照時間は平年の半分にも満たない状況となっています。(アメダスデータ参照)

気温に関しては平年に近い気温となっていますので高温多湿傾向で推移しており、今後の病害の発生と生育障害発生が懸念されます。

長期予報では8月に入ると高温続きの天候が続く予報も発表されておりますので、停滞水の除去と事前の排水対策を徹底しましょう。

各品目の詳しい管理につきましては裏面を参照下さい。

令和2年アメダスデータ (観測地：酒田)



## ○果樹全般

- ・各種病害虫が発生しやすい状況となっているが、雨が降り続けているため防除を行うことができません。天気予報を確認し晴れる予報の日に計画を立てて防除を行いましょう。
- ・果樹カメムシ類の発生が平年と比べ多くなっているため、本格的な加害時期に入る前に、飛来状況や被害状況を観察し適期防除を行いましょう。

## ○庄内柿

- ・生理落果が発生している園地が中山間地域を中心に散見されます。仕上げ摘果は生理落果終了する8月上旬より着果量に応じて行うようにしましょう。
- ・カメムシ類や炭そ病等の防除のため、8月上旬に特別防除を行いましょう。

## ○日本なし

- ・「幸水」の裂果が刈屋・八幡地域全域で見られます。裂果した果実の摘果や新梢管理は7月末まで行わないようにしましょう。
- ・黒星病が管内園地で散見されています。気温が低く雨の多い年では多発する傾向であるため、発病部位は摘み取り、適切に処分するとともに、晴れ間に防除を徹底しましょう。

## ○野菜全般

- ・長雨と日照不足により草勢低下と病害が発生しやすい状況となっています。早急な草勢回復と病害予防の徹底を図りましょう。
- ・降雨期の晴れ間を積極的に利用し、殺菌剤による予防防除を徹底しましょう。
- ・薬剤散布の際は、薬液が早めに乾くように散布時間を考慮するとともに、展着剤を使用し薬剤の有効利用を図りましょう。
- ・明渠など排水対策の再確認を行ないましょう。
- ・圃場が乾き作業が可能になった時点で軽く中耕を行い、土壌の通気性や透水性を確保しましょう。(長ねぎ)



## ○ミニトマト

- ・着果負担の軽減の為に、不良果を中心に摘果(1果房20果程度)しましょう。
- また、定期的な追肥と液肥の葉面散布、脇芽からの葉を1~2枚残し葉面積を確保し、草勢の回復に努めましょう。
- ・天候回復後の強日照による萎れ・葉焼け防止の為に細かい遮光管理を行う。但し作業の都合上遮光資材を剥ぐことができない場合は、展張したままにしておきましょう。
- ・軟弱徒長及び多湿防止のため、葉かきや芽かきを行い株全体に日光が当たるようにください。
- ・多湿による病害予防の為に施設内の換気や空気循環、施設内外の排水対策を徹底しましょう。

## ○長ねぎ

- ・速やかに圃場内の停滞水を除去するとともに殺菌剤の予防防除を行い、べと病等の発生を防ぎましょう。
- ・中耕培土は、軟腐病予防のため、高温が続く場合は無理に行わず涼しくなるまで待ち、地温の低い早期に行いましょう。また、作業時には殺菌剤を利用して下さい。

## ○アスパラガス

- ・茎葉が繁茂し湿度が溜まりやすい状況となっているため、斑点病・褐斑病の発生が助長されることが予想されます。ハウス内の換気と、晴れ間に殺菌剤による防除を行い、病害の蔓延を防ぎましょう。また、下葉の除去を行ない、通気性を高め病害の発生し難い環境を整えましょう。

- ・排水不良の圃場では、萌芽数低下の要因となるため、ハウス周辺の明渠や排水溝が排水路まで詰まらず接続しているか再点検し手直ししましょう。

## ○メロン・スイカ

- ・病害虫防除を行ない、果実腐敗の発生防止や茎葉被害を防止し、収穫時期と薬剤の収穫前日数には注意ください。
- ・収穫まで草勢が維持できないような場合には、アミノ酸資材などの葉面散布を行ないましょう。
- ・軟化玉や腐敗果が発生している事から選別を徹底しましょう。

## ○枝豆

- ・長雨により溜まった畝間の停滞水を排除する。また、根が長時間の停滞水で弱っている為に、亜リン酸資材を使用し根の回復に努めましょう。
- ・茨汚損症の発生軽減のため、予防防除を徹底ください。
- ・梅雨明け後の気温上昇により収穫作業の繁忙化が懸念されるため、適期収穫の徹底と的確な出荷調整を行ないましょう。

## ○パプリカ

- ・茎葉の萎れや草勢が低下してくる場合には、液肥(アミグロー等)の葉面散布を3~5日の間隔で連続3回程度実施して、草勢の回復を図りましょう。

## ○花き全般

- ・施設栽培では、雨曇天後の強い日照による萎れや葉焼けを防ぐ為に遮光を行うが、軟弱徒長を防止する為に遮光の開閉はこまめに行う。多湿にならない様に換気の徹底を図り晴れ間に必ず防除を行いましょう。
- ・トルコギキョウは日照不足によりプラスチックが発生しやすくなる為に不要な枝や蕾を除去し、極端な水切りは行わない様にしましょう。
- ・小菊等露地栽培では、白さび病に注意するとともに、調整時に乾燥させる。乾燥が不十分だと箱内で蒸れて葉傷みを発症する可能性がある為に注意しましょう。

- ☆停滞水による草勢低下の際は、亜リン酸資材・アミノ酸資材を使用する事で生育の回復が図られる場合があります。

## ○亜リン酸資材

### トップスコア・リン (葉面散布剤)

#### トップスコア・リンの特徴

- ・花芽分化、着果、着色、糖度、増収、ツルぼけ対策
- ・亜リン酸スピード吸収 ※亜リン酸は発根作用の向上効果があります。

## ○アミノ酸資材

### アミグロー (葉面散布剤)

#### アミグローの特徴

- ・吸収が早く、速やかに効果が発現するアミノ酸入り葉面散布液肥です。
- ・収穫物の食味、色つや、形状などが向上し品質アップにつながります。
- ・植物の環境ストレスに対する抵抗力がアップする。作物の安定収穫をはかりましょう。
- ・果樹、野菜、畑作物、花き類まで幅広い作物に使用可能です。

**両剤とも農薬と混合可能ですが、その際は園芸センターへ問合せ下さい**